

【19】神道護摩私大事

写1冊

弘前

授与 秀海

〔書名よみ〕 しんとうごましだいじ 〔編著者〕 未詳

〔書写者〕 義觀 〔写刊年次〕 明治三年（一八七〇）

金剛山光明寺最勝院院家
伝燈大阿闍梨權大僧都妙海

〔外題〕 神道護摩私大事

〔内題〕 神道護摩私大事

〔その他〕 ナシ

明治三_{庚午}歳六月廿九日

義觀房

秀海一日_{ニテ}書写之

〔残欠状況〕 全

〔保存状況〕 小破

〔装訂〕 袋綴（横）

〔丁数〕 一四丁 〔本文用字〕 漢字・片仮名・梵字 〔一面行数〕 九行

〔表紙〕 本文共紙 〔法量〕 縦一三・八×横二〇・〇糪

〔料紙〕 楷紙

〔書入〕 注記（朱・墨） 〔印記〕 ナシ

〔解題〕

神道護摩とは、神道が真言の事相を取り入れて、神道の修法として形成したもので、神道で重視される秘儀秘法である。

護摩は、元来は仏教における密教の修法であつて、密教や修驗道で行われるが、神道の神社でも護摩が行われるものである。現在も、神職や山伏による護摩祭が続いている神社もある。

本書は、修驗道寺院に伝わったものと思われる、神道護摩の次第書である。奥書には、元和五年（一六一九）に勢州（伊勢国）において写されたものを最初に、山城国法輪寺での良優の書写伝授、山城国西福寺での活濟上人、明和八年（一七七一）に六波羅蜜寺で校合がなされる。

このような奥書を持つ本が弘前に渡つて、最勝院院家の妙海から明治三年（一八七〇）に、円覚寺海浦義觀に伝授、義觀が書写したものである。

〔奥書〕

元和五年三月吉日於勢州山田渡田会書之

城西山差山我法輪住

鷲峯山新藏院文俊

良優

鷲峯山新藏院_{ニテ}伝授砌書写 堯朝

盛運春秋四

山城綴喜郡玉水西福寺

神祇伝燈阿闍梨權大僧都活濟上人

明和八_{辛卯}歳（一七七一）十月廿三日

京六波羅密寺隱居智門法印以所持次第校合畢

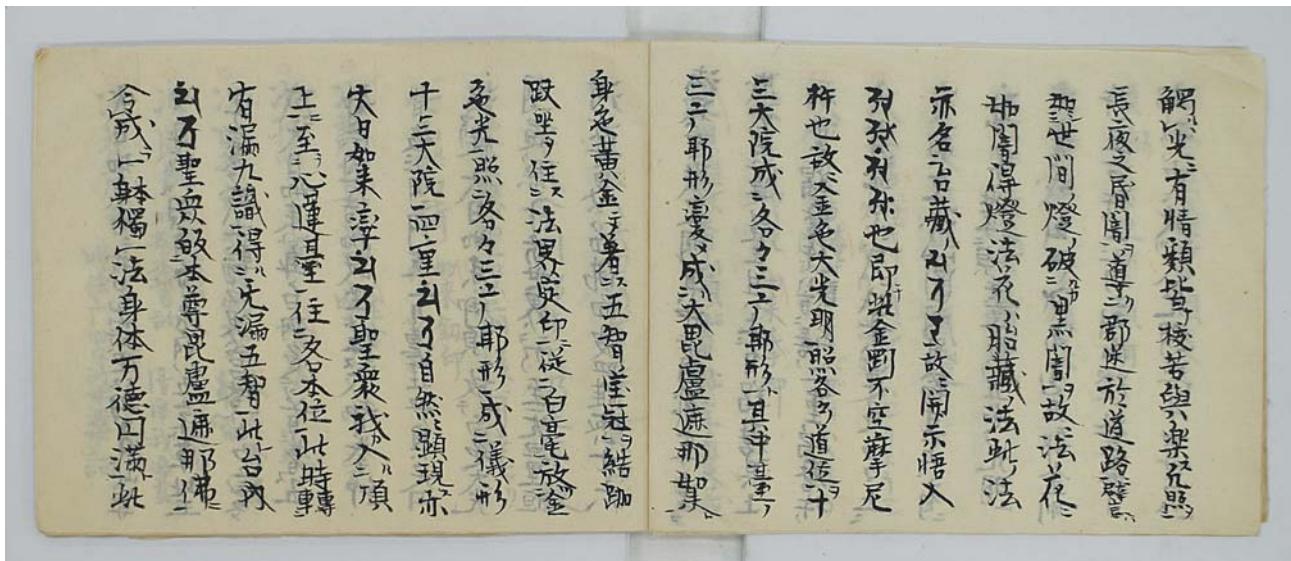
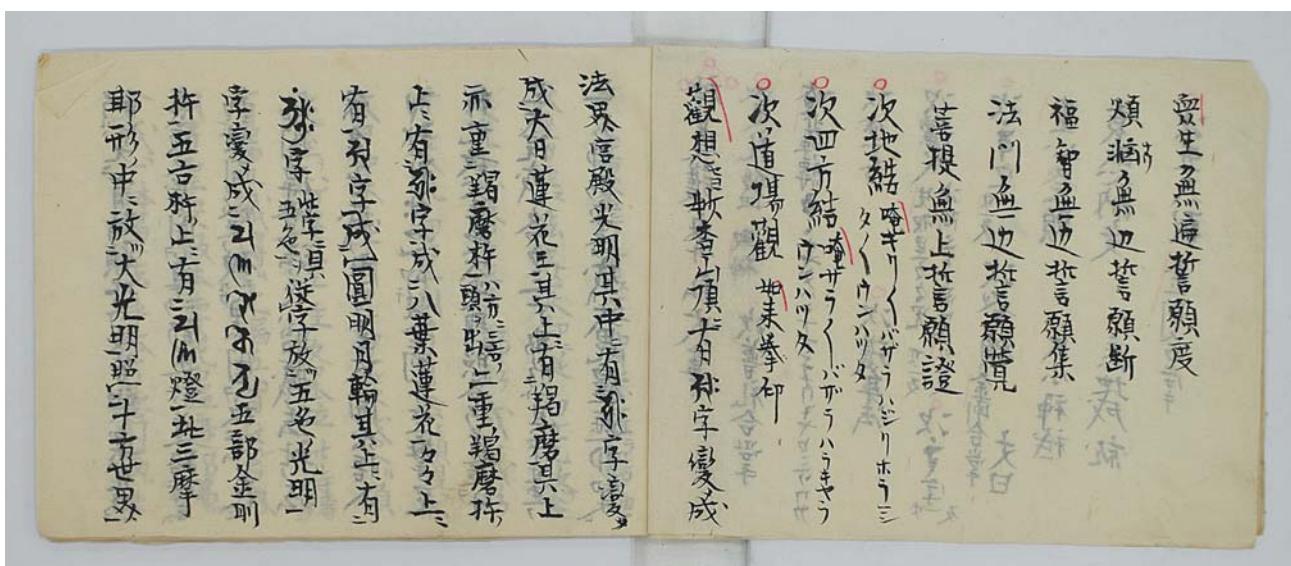
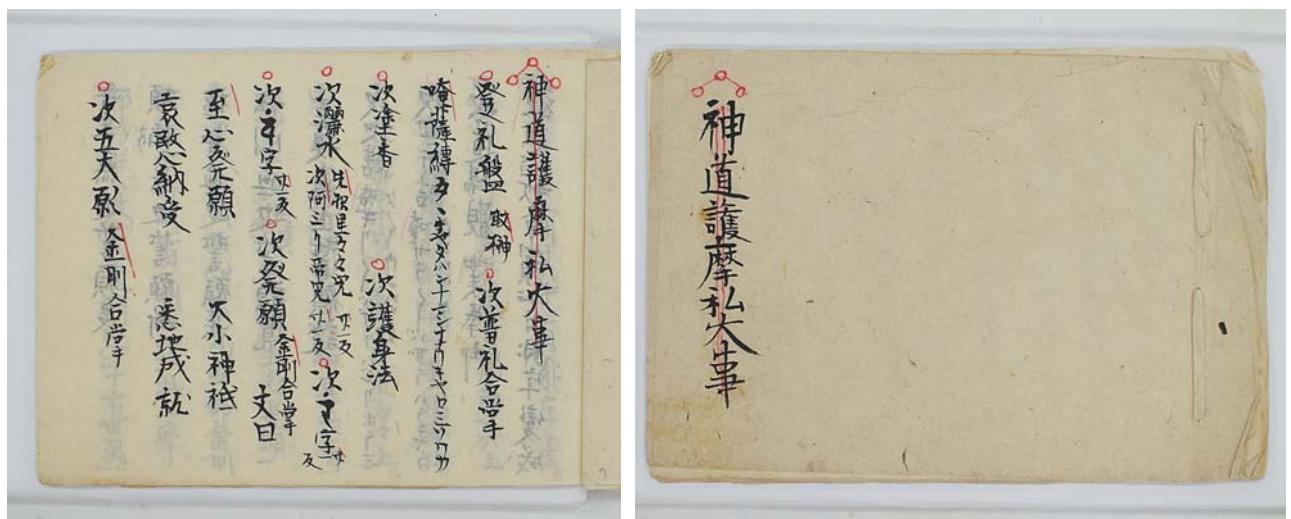
〔参考〕

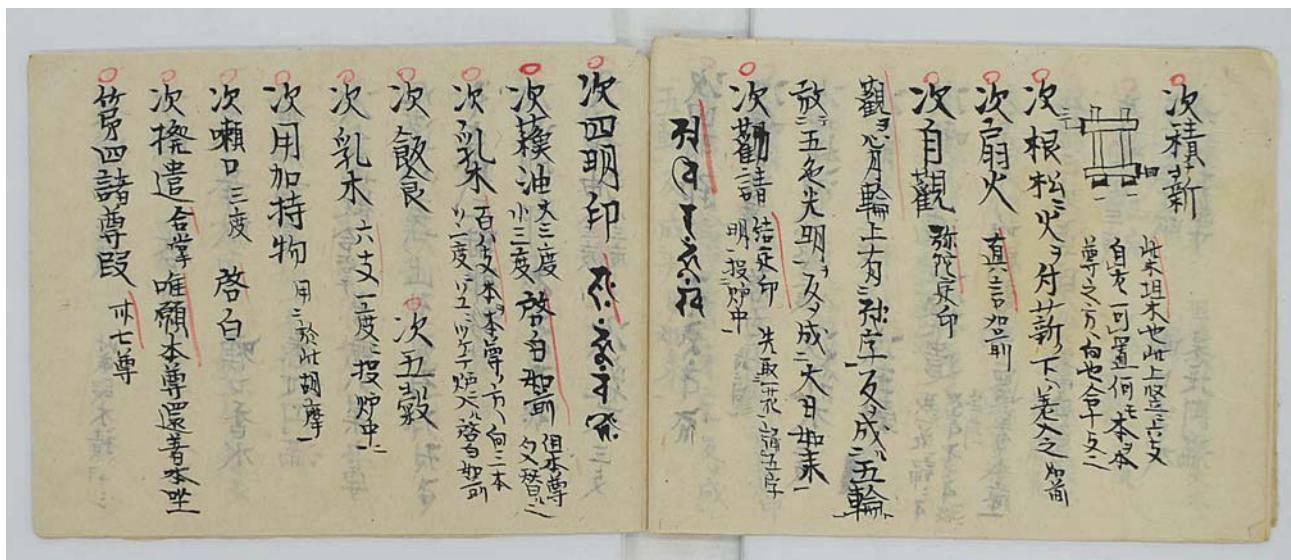
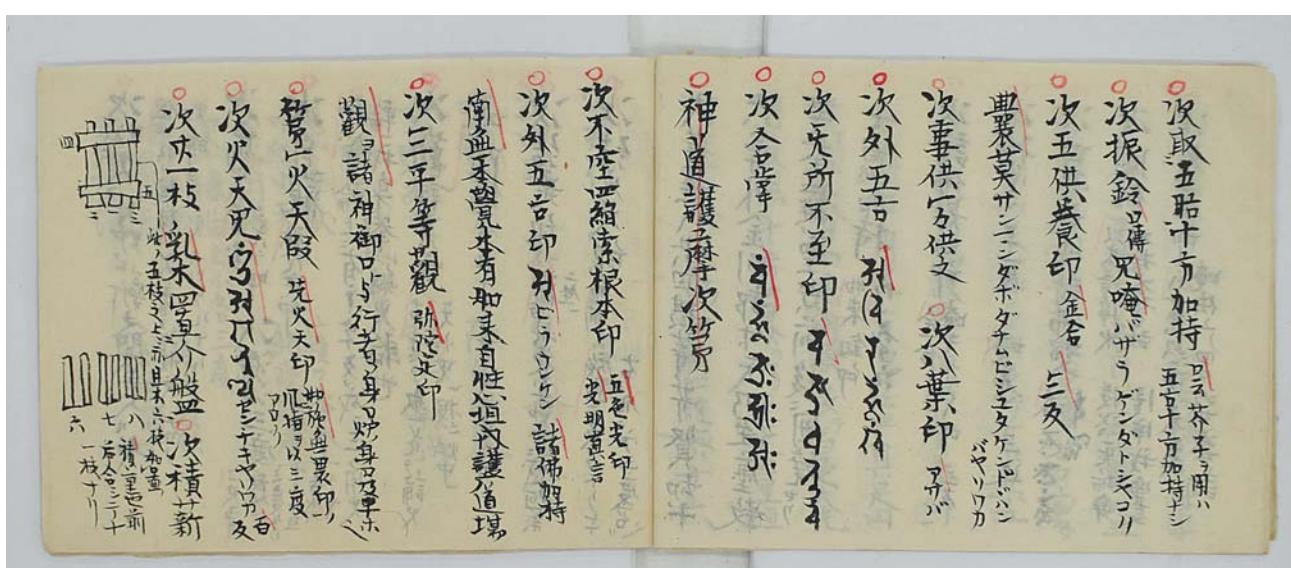
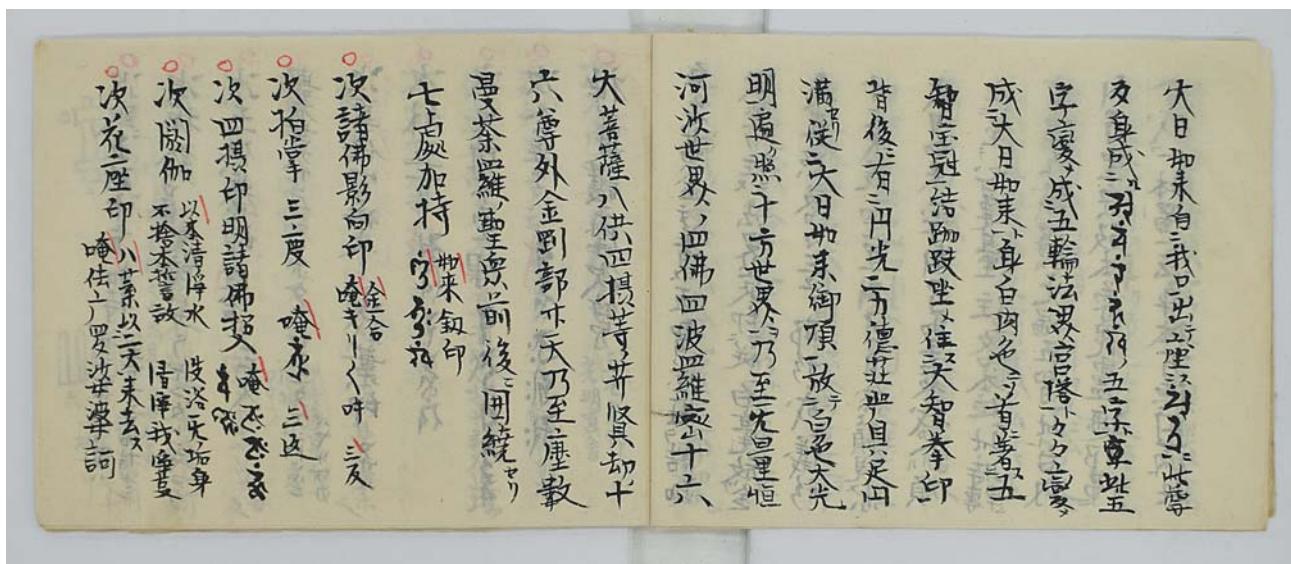
・ 加藤章一「神道護摩について」『宗教研究』四五・三（通号二二〇）、

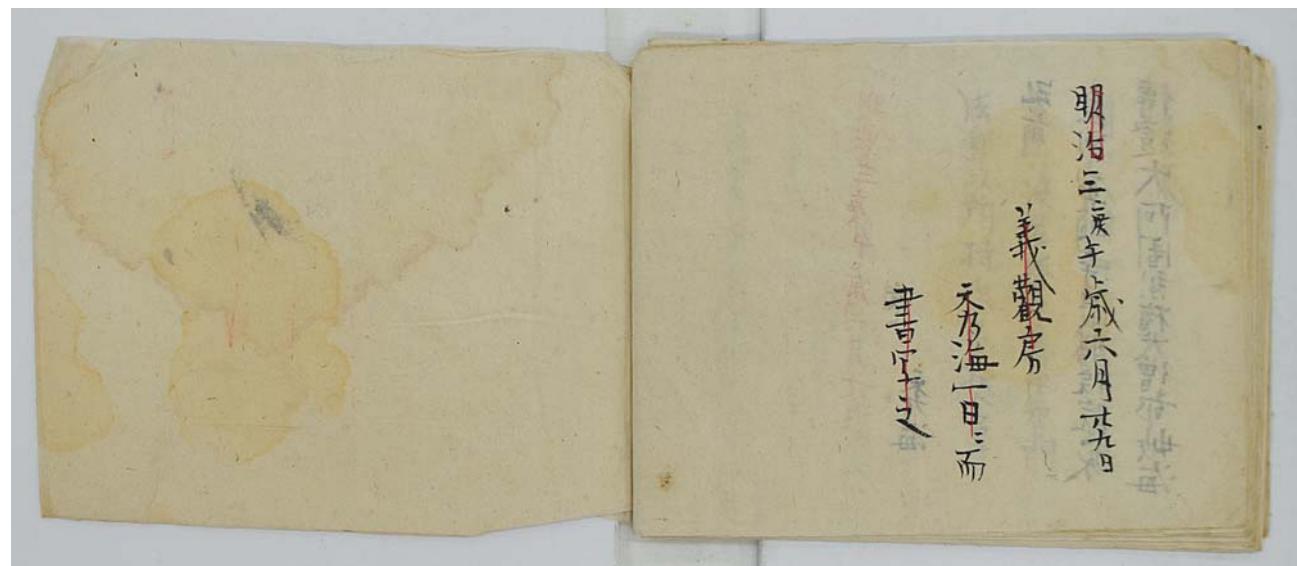
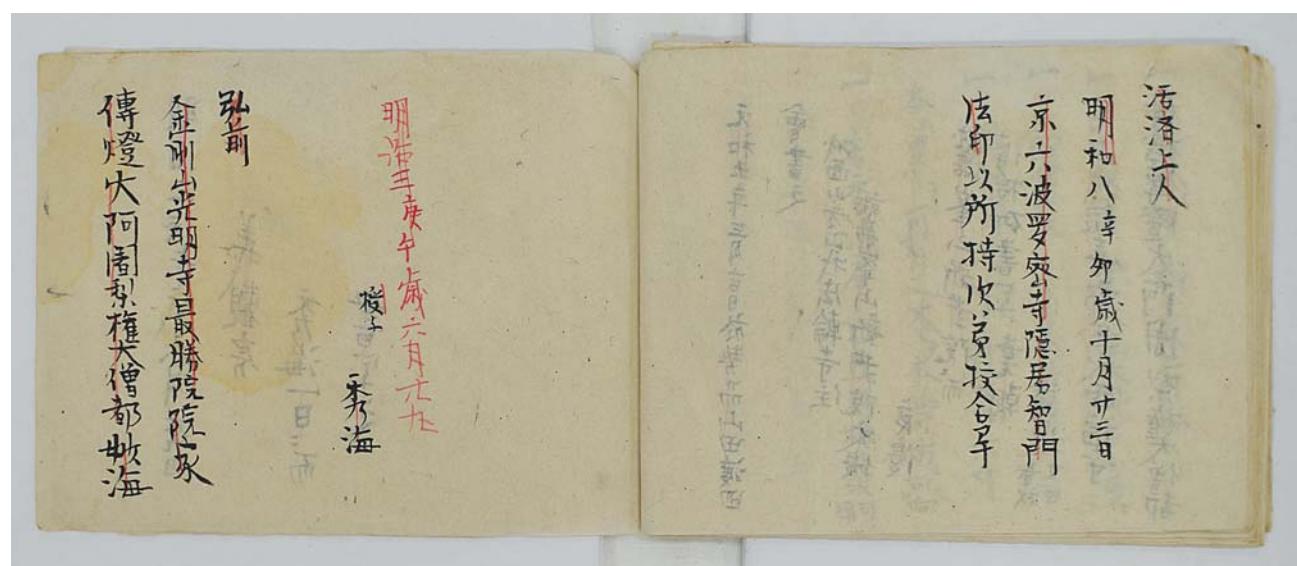
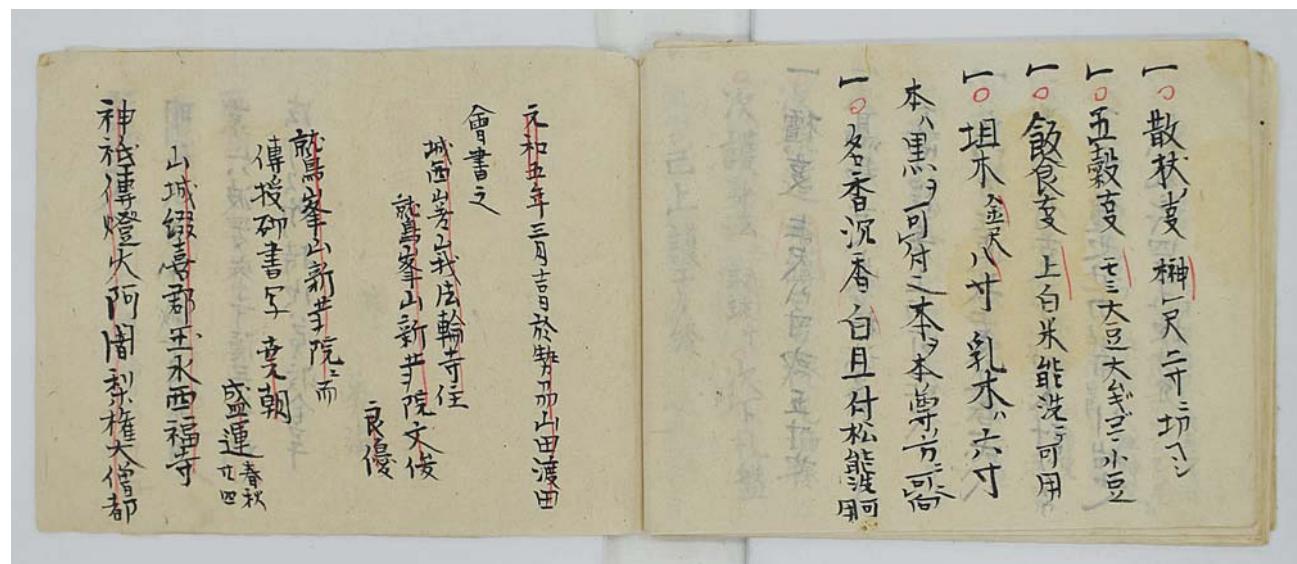
一九七二年三月

（渡辺 麻里子）

（朱）「明治三_{庚午}歳（一八七〇）六月廿九」







元和五年三月吉日於勢而山山田渡田
會書之
城西山房山我法輪寺住
就鳥峯山新茅院文俊
良優
就鳥峯山新茅院而
傳授印書写 章朝
盛運 春秋
廿四

弘前
明治三十三年歲六月廿九日
義觀房
秀海
書于十之

山城銀喜郡王永西福寺
神祐傳燈火阿闍梨權大僧都
傳燈火阿闍梨權大僧都妙海